（様式４）

教育研究グループ「研究結果」報告書

報告日 令和　２年　３月　５日

グループ名	武蔵村山市立第三小学校　研究部	フリガナ 代表者氏名	ノナカ　テッペイ 野中　哲平
学校名 （代表者）	武蔵村山第三小学校	電話番号	０４２－５６２－１７５３
研究テーマ	「確かな学力の育成を目指した授業改善と校内改善 ～主体的に学習に取り組み、思考を深める児童の育成～」		
研究期間	平成　３１年　４月　１日　から　令和　２年　３月　３１日　まで		

研究結果の概要

※詳細は別紙により報告

１　実施計画に至るまでの経緯

「主体的」というキーワードに焦点を当て、その実現に向けてどのような指導の手だてを行えばよいか、算数の授業で実践を通して考えることで、確かな学力を育成していく。

２　活動内容

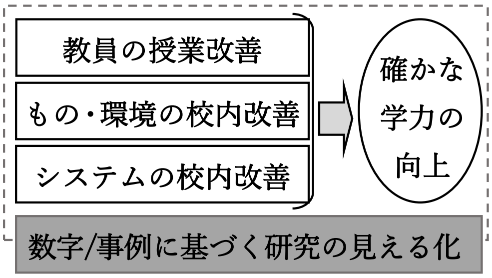
（１）目的　**研究主題「確かな学力の育成を目指した授業改善と校内改善」**

（２）対象者：武蔵村山第三小学校　全児童（４６６名）　（３）教科　**算数**

（４）活動の期間：2019.4－2020.3

（５）活動の特色

「授業改善」「校内改善－もの・環境－」「校内改善－システム－」の３つの視点から具体的に改善に取り組んできた。それにより、1時間のために作り込んだ研究授業だけの授業改善ではなく、日々の授業の改善を実現することで学力向上を目指してきた。



３　主体的な学びを生むための２つの手だて

今年度は授業改善の取組をさらに深めるために、「主体的な学び」に焦点化して研究授業を行った。本校では、「やってみたい」「本当の答えを知りたい」「この先を考えてみたい」という児童の能動的な学習意欲に支えられた学習を「主体的な学習」と位置付けることにした。「問い」をもった児童は、その「問い」を解決したくてたまらなくなる。そうすれば児童は放っておいても解決へ向かって動き出す。能動的な解決の姿が現れる。そのような「たい」と「問い」を生むしかけのある算数の授業を、本校の研究では目指してきた。そのために、指導の手だてを「しかけ」と「スキル」の二つに分けて設定した。

４　成果

<授業改善に関して>

・年間を通して校内での研修や研究授業を行ってきたことで、算数の内容や指導に関する知識が積み重なってきた。「主体的な学び」のための手だてを「しかけ」と「スキル」に大別して考えることができたとともに、それを実践することができた。

<校内改善－もの・環境－>

・助成金や校内予算を計画的、効果的に活用したことで様々な物品が整った。ドリル、参考書、１ｍ定規、三角定規、ICT 機器まで多種多様な物品が充実した。

<校内改善－システム－>

・東京ベーシック・ドリルの診断シートの結果を分析することで、児童の学力の変容を把握できた。また、研究通信や運営協議会等を通して、保護者への理解を図った。授業以外での学びを支えるシステムが整った。

授業改善の取組

新学習指導要領の『主体的・対話的で深い学び』を どのように具体化していくか考え、実践すること

－授業研究－

新指導要領に基づく「数学的な資質・能力」や「見方・考え方」を育むことを目指すこと。「主体的な学び」を実現する具体的な手だてを、研修や実践を通して学び実践していくこと。

校内研修

第１回「本校の研究のこれまでとこれから」　４月５日
第２回「『問い』を引き出す手だて」　５月 20 日
　研究主任　野中　哲平　教諭(本校)

第４回「算数の主体的な学びについて」　７月５日
　講師　牧　一彦　先生(武蔵村山市立第八小学校校長)

第３回「算数の主体的な学びとは」　６月 20 日
第５回「主体的な学びを引き出す手だて」　７月 22 日
第６回「模範授業を通した手だての実践」　９月 21 日
　講師　小泉　友　先生(立川市立幸小学校指導教諭)

第７回「数学的な資質・能力とは」　11 月１日
　滝澤　福一　先生(元都算研副会長)

第８回「主体的な学びを引き出す手だて」　11 月 29 日
　＜低学年＞
　講師　平井　哲　先生(私立明星小学校教諭)
　＜高学年＞
　講師　河合　智史　先生(国立第三小学校主幹教諭)

第９回「主体的な学びを引き出す手だて」　１月 31 日
　＜低学年＞
　講師　小泉　友　先生(立川市立幸小学校指導教諭)
　＜中学年＞
　講師　尾形　祐樹　先生(日野第五小学校指導教諭)

講演や頂いた資料を通して、数学的な資質・能力や見方・考え方を育むための「主体的な学び」とはどのようなものなのかを学びました。その中で、目指していく児童の姿や、それを実現するための手だてを具体的な実践例をもとに教えていただき、次の研究授業に生かしていきました。

成果と課題

9回の研修会と6回(8授業)の研究授業を通して、目指したい学びとそれを実現するための指導方法を考え、学年で協力して指導案や教材を作成することが出来ました。また、その過程や協議会を通して、全員で算数の授業に向き合うことが出来たことが最大の成果だと感じています。「主体的な学び」をつくる手だてやスキルが実践の中で蓄積されました。

－ＡＬの視点での授業改善－

研究授業を通して指導方法や手だてを全員で検討し学び、日々の授業に活かしていくこと。

研究授業

第1回　3年「表とグラフ」　6月20日
授業者　野中 哲平 教諭　(少人数発展)
テーマ 友達の意見とのズレをしかけることで問いを生み、確かめたいという意欲を引き出す指導。

第2回　4年「式と計算」　7月5日
授業者　菅沼 亜紀 教諭　(少人数基礎)
テーマ 教室の児童数で均等に分けるという、自分が関わる問題を解決したいという意欲を高める指導。

第4回　6年「比例」　11月1日
授業者　神近 正浩 主幹教諭　(少人数標準)
テーマ 算数の学習を生かして、身近な物から生まれた問題を解決したいという意欲を引き出す指導。

第5回　1年「かずしらべ」　11月29日
授業者　鳥海 航 教諭　(1-1)
テーマ 多数の資料を一度に与えることで問いを生み、すっきりさせたいという意欲を引き出す指導。

第5回　2年「比例」　11月29日
授業者　石井 理奈 教諭　(少人数標準)
テーマ 不完全な表から驚きと疑問を生み、変化を表に表し確かめたいという意欲を引き出す指導。

第6回　2年「分数」　1月31日
授業者　影浦 知枝 教諭　(2-2)
テーマ 不公平感のある問題設定により意欲を高め、きっちり分けたいという意欲を引き出す指導。

第6回　3年「□を使った式」　1月３１日
授業者　谷中 千尋 教諭　(少人数発展)
テーマ 未知の2量を求めるために、図・式・言葉で考えを表現したいという意欲を引き出す指導。

研究授業を通して、教材作成の工夫や指導の手だてを学ぶとともに、協議会を通して成果や課題を全体で共有することができました。

校内改善　もの・環境の取組

より効果的・効率的な指導を目指し
日々の指導を支えるもの・環境を整備し充実させること

－教材･教具の充実－

希望を聞きながら、不足している教材や必要な教材を揃え、計画的に購入していくこと。
また、今あるものを整理するとともに、必要なものを購入し、全員が使いやすいよう整えること。

助成金の申請と採択

２年連続で「ちゅうでん教育助成金」と「東京都教職員互助会　教育助成金」に採択されました。必要な教材・教具や書籍の購入等、計画的に活用しています。

ホワイトボードの購入･管理

Ａ３サイズのホワイトボードを 10 枚、全学級に購入・配備しました。児童が考えを説明する際に、図をかきやすいよう、マス目のあるものを購入しました。

必要教材の希望調査と購入

年度の始めに､必要な書籍や教材を全員に希望調査し､予算の採択に合わせて順次購入しています。また、それらに管理番号を付け、長期的な使用を目指します。

ミニホワイトボードの購入･管理

学級の児童全員がホワイトボードを持ち､自分の考えを書いて学び合い活動ができるよう、A4 サイズの両面ボードを 80 枚用意し､貸出できるようにしました。

作図教具の購入･配備

全学級に、１ｍ定規・三角定規・分度器を購入しました。従来の木製と違い、透明・磁石付き・小型の樹脂製を選ぶことで､使いやすく操作しやすくなりました。

ホワイトボードマーカーの購入･管理

全学級にホワイトボードマーカーを黒赤青の３色１０本ずつ購入しました。使いやすい丸芯で、後ろからでも見えやすいよう太さを選びました。

校内予算を調整し、外部からの助成金と合わせて、計画的に教材・教具を購入しました。大切なのは、何が必要で何が不足しているかを把握することと､購入したものを共有し全員で使える環境を整えていくことだと考えています。今後もこれらの物品を、維持管理していきます。

成果と課題

書籍・ドリル・教具・ＩＣＴ機器と多くのものを購入し、配備することが出来ました。購入した物品を長く大切に使っていくために、担当者を決めて年度毎に貸出を行うなど、管理体制の強化も同時に行いました。指導環境を整えるとともに、どのように使用すれば、より効果的なのか考えてきたことで、児童のより良い学びにつなげることができました。

－ＩＣＴ環境の整備－

ＩＣＴ機器を購入したり、整理したりすることで、使いやすい環境を作り上げること。

ＩＣＴ機器の整理と貸出

特別教室を含む全教室に、薄型 TV を配備しました。教師一人、HDMI・microHDMI ケーブルを各一本購入・貸与し、タブレット等の活用環境を整えました。

HDMI 端子の延長化工事の提案・実施

実物投影機やタブレットをつなぐ TV の HDMI･USB 端子の延長工事を市に提案し、実施しました。各ケーブルが混線せず、すっきりと使いやすくなりました。

実物投影機の配備

昨年度に引き続き、実物投影機を追加購入したことで、全 13 台揃いました。各学級で据え置き使用できるようラベルを付け、貸出管理を行っています。

この 2 年間で ICT 環境が大幅に改善されました。今後は、これらの機器を全教員が有効に活用できるようにしていきます。

－校内環境の整備－

校内掲示を充実させるとともに、様々な教科で活用できる環境を整えていくこと。

階段掲示の充実

九九のイラストを作成し、階段に掲示しました。かわいい絵を精選するとともに、式と結び付けることで、視覚的に理解を深められるように工夫しました。

校内掲示の充実

算数少人数教室の廊下に、放送委員会の児童が作成した算数クイズを掲示しました。児童が数の面白さを知り、興味関心を高める機会になりました。

大型スクリーンの設置

計画的・効果的な予算執行で、体育館に電動大型スクリーンを購入設置しました。教科指導・行事・集会での日常的な活用に加え、今後の研究発表で使用します。

計画的･効果的な予算計画で、来年度以降も校内を改善していくことで、児童のより良い学習環境を目指していきます。

校内改善 システムの取組

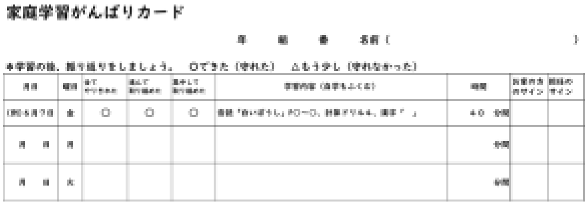
様々な面からの学力向上を目指していくために
授業以外の学びを支えるシステムを整理し充実させていくこと

－家庭学習の工夫－

家庭学習の内容や取り組み方を見直し、家庭の理解を得ながら効果的に実施すること。

「家庭学習カード」の作成

「何に」「どのくらい」「どのように」取り組んだか、児童が記録することで、自らの家庭学習を目で見て振り返ることができるようなカードを作成しました。


家庭学習がんばりカード

家庭学習週間の実施

１学期に家庭学習週間を設定し、１週間にわたって実施しました。上記カードを活用することで、家庭学習を児童・保護者・教員三者で共有し、見直しました。

個人面談でのカードの活用

夏休みの個人面談で、上記カードを活用しました。学校と家庭での学習の様子を共有することで、共通理解のもと子供の学力向上を目指すきっかけを作りました。

来年度以降も、家庭学習週間を継続実施し、保護者の方にも御理解・御協力いただける機会を設定していきます。

－朝学習の計画的実施－

年間計画に基づき朝学習を実施し、前学年の反復習熟に取り組み学力の基礎を作ること。

年間計画の作成

昨年度に引き続き、６年間、系統立てて朝学習に取り組んでいくために、つまずきの多い内容と面白い算数の問題を精選・作成し、年間実施計画を決定しました。

朝学習の計画的実施

年間計画に基づき、毎週火曜日に朝学習に取り組んでいます。１５分の中で問題に取り組み、答え合わせをすることで、学力の基礎を育んでいます。

研究通信の発行

家庭に向けて研究通信を発行し、学校でどのようなことを目指し、どんなことに取り組んでいるかを御理解いただけるようにしています。

来年度以降も、毎週火曜日に朝学習を設定し、継続実施していくことで、基礎的な学習内容の定着を目指していきます。

成果と課題

この２年間の取組を通して、様々なシステムの改善が見られました。授業のみでなく、それらのシステムの改善が、基礎的な学力を育む礎となることを信じています。今後も継続実施していくことで定着を図り、教員・児童・保護者の三者が連携・協力しながら、より良い三小を目指していきたいと思います。

－ベーシック・ドリルの活用－

診断テストを実態を測る指針とし、指導を振り返りながら、学力を向上させていくこと。

診断テストの実施

年間５回診断シートを実施し、「得点分布図」と「問題別正答率」から分析、児童の変容を見取りました。学年毎に苦手分野克服のための補充に取り組みました。

市学力向上推進委員との連携

本校で作成した診断シートの分析ツールを、市全体に共有しました。児童の変容を可視化し、その分析に基づいた指導と支援に取り組む仕組みが広がりました。

他校と連携した取組報告書の作成

市内４校と協力し、上記ツールに基づく年間を通した校内の取組と児童の学力の変容を報告書にまとめました。連携を図ることで、市全体の学力向上に努めます。

今後も診断シートを分析し、ドリルを活用していくとともに、市内各校とも連携を図りながら学力向上に取り組んでいきます。

－調査結果の活用－

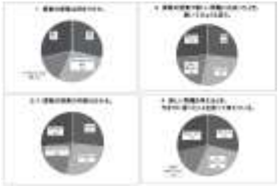
児童の実態を正確に把握し、その結果を活用するとともに、変容を見える化すること。

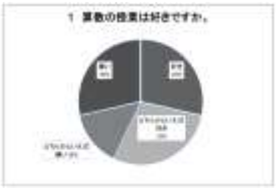
意識調査の質問用紙と分析表の作成

児童の実態を正確に把握するとともに、研究として目指したい子供たちの意識の変容が見取れるような質問項目を選定し、答えやすい質問用紙を作成しました。

意識調査の実施

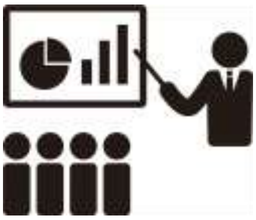
第一回意識調査を七月上旬に、第二回を二月中旬に実施しました。本結果を三小の現状とし、どのように変容したかを研究の成果として見取ります。





学校運営協議会への報告

学校運営協議会で研究の目的や取組を共有しました。前年度の報告書をもとにプレゼンテーションを行うことで、地域や保護者の方々にご理解いただきました。



「確かな実態の把握が、確かな学力につながる」という言葉を信じて、児童に向き合う材料にしていきます。